



## ラック サーバの管理

---

この章は、次の内容で構成されています。

- [ラックマウント サーバの詳細の表示 \(1 ページ\)](#)
- [ラック マウント サーバの障害の詳細の表示 \(4 ページ\)](#)
- [ラック マウント サーバの電源オン/オフ \(5 ページ\)](#)
- [ラック マウント サーバのアセットのタグ付け \(6 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバのシャットダウン \(7 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバのハードリセットの実行 \(7 ページ\)](#)
- [ラック マウント サーバの電源再投入の実行 \(8 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバの KVM コンソールの起動 \(9 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバの GUI の起動 \(10 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバのロケータ LED の設定 \(11 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバのラベルの設定 \(11 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバのタグの管理 \(12 ページ\)](#)
- [ラックマウント サーバのタグの追加 \(16 ページ\)](#)
- [リモート サーバへのテクニカル サポート データのエクスポート \(17 ページ\)](#)
- [SEL のクリア \(19 ページ\)](#)
- [システム タスクの管理 \(19 ページ\)](#)

## ラックマウント サーバの詳細の表示

ラックマウント サーバの詳細（サーバで使用されているメモリ、CPU、PSU など）を表示する場合は、次の手順を実行します。



---

(注) **[Rack Groups (ラック グループ)]** を選択し、ラックマウント サーバの詳細を表示する手順を実行することもできます。

---

## 始める前に

サーバがラック アカウントとしてラック グループに追加されていることを確認します。

## 手順

- ステップ 1** [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。
- ステップ 2** [Rack Groups (ラック グループ)] を展開し、サーバが含まれているラック グループを選択します。
- ステップ 3** 選択したラック グループのページで、[Rack Servers] をクリックします。
- ステップ 4** リストでサーバをダブルクリックしてその詳細を確認するか、リストでサーバを選択し、右端の下矢印をクリックして [View Details (詳細の表示)] を選択します。

(注) リストからサーバを選択するまでは、右端に下向き矢印は表示されません。

ラックマウント サーバに関する次の詳細を表示できます。

タブ	説明
要約	ラック アカウントの概要。
CPU	サーバで使用されている CPU の詳細。
メモリ	サーバで使用されているメモリの詳細。
[PSUs]	サーバで使用されている電源装置の詳細。  (注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。
[PCI Adapters]	サーバで使用されている PCI アダプタの詳細。
[VIC Adapters]	サーバで使用されている VIC アダプタの詳細。  リストにある任意の VIC アダプタを選択して [View Details] をクリックすると、[External Ethernet Interfaces] や [VM FEXs] などの情報が表示されます。
ネットワーク アダプタ	サーバで使用されているネットワーク アダプタの詳細。  リストされている任意のネットワーク アダプタを選択して [View Details] をクリックすると、[External Ethernet Interfaces] の情報が表示されます。
[Storage Adapters]	サーバで使用されているストレージアダプタの詳細。  リストされているストレージアダプタのいずれかを選択して [View Details (詳細の表示)] をクリックすると、[Controller Info (コントローラ情報)]、[Physical Drives (物理ドライブ)]、[Virtual Drives (仮想ドライブ)] などの情報が表示されます。「SSD のスマート情報の表示」を参照してください。

タブ	説明
[FlexFlash Adapters]	<p>サーバで使用されている FlexFlash アダプタの詳細。</p> <p>リストにある任意の FlexFlash アダプタを選択して [View Details] をクリックすると、[Controller Info] や [Physical Drives] などの情報が表示されます。</p> <p>Cisco IMC Supervisor を旧バージョンからアップグレードしている場合、FlexFlash の詳細をレポートに表示するには <b>[Systems (システム)] &gt; [Physical Accounts (物理アカウント)] &gt; [Rack Accounts (ラック アカウント)] &gt; [Inventory (インベントリ)]</b> に移動してインベントリを実行するか、定期的なインベントリが実行されるのを待つ必要があります。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>
コミュニケーション	HTTP、HTTPS、SSH、IPMI Over LAN、NTP、SNMP などのプロトコルの情報。
[Remote Presence]	vKVM、Serial over LAN、vMedia の詳細。
障害 (Fault)	サーバで記録された障害の詳細。
Users	<p><b>デフォルトグループ</b>のユーザーに関する詳細。ユーザーポリシーおよびパスワードの有効期限ポリシーの作成時に設定した強力なパスワードポリシーとパスワード有効期限の詳細も確認できます。<a href="#">ユーザポリシー</a>および<a href="#">パスワードの有効期限ポリシー</a>を参照してください。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>
Cisco IMC ログ	<p>サーバの Cisco IMC ログの詳細。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>
システム イベント ログ	<p>サーバ ログの詳細。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>
TPM	TPM インベントリに関する情報。
BIOS	<p>サーバの BIOS 設定とブート順序に関する詳細。</p> <p>サーバを選択して、[View BIOS Settings]、[View Boot Settings]、または [View Boot Order] をクリックしてください。</p>
障害履歴	サーバで発生した障害の履歴情報。

タブ	説明
[Tech Support]	<p>ファイル名、宛先タイプ、アップロードのステータスなどのテクニカルサポート ログ ファイルに関する詳細は、[Tech Support] テーブルに表示されます。</p> <p>リモートサーバまたはローカルの Cisco IMC Supervisor アプライアンスへテクニカルサポート ログ ファイルをエクスポートするオプションがあります。エクスポートの詳細については、<a href="#">リモートサーバへのテクニカルサポート データのエクスポート (17 ページ)</a> を参照してください。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>
ホスト イメージ	<p>イメージの詳細 (名前、サイズ、MD5 チェックサム、最終変更時刻、イメージがマップされているかどうかなど) が表示されます。イメージを選択し、[Map Image (イメージのマッピング)]、[Unmap Image (イメージのマップ解除)]、または [Delete Image (イメージの削除)] を選択して、それぞれのアクションを実行できます。</p> <p>(注) ホスト イメージ マッピングは、E シリーズ サーバにのみ適用できます。</p>
[Associated Hardware Profiles]	ハードウェア プロファイルに関連付けられているポリシーの詳細。

ステップ 5 右端の [Back] ボタンをクリックして前のウィンドウに戻ります。

## ラック マウント サーバの障害の詳細の表示

問題の原因や問題解決のための推奨手順など、ラック マウント サーバの障害の詳細を表示する場合は、次の手順を実行します。

### 始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

### 手順

ステップ 1 [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

ステップ 2 [Rack Groups (ラック グループ)] ページで、[Faults (障害)] をクリックします。

ステップ 3 リストでサーバをダブルクリックし、詳細を表示します。リストでサーバをクリックし、右端の下矢印をクリックして [View Details (詳細の表示)] を選択することもできます。

(注) リストからサーバを選択するまでは、右端に下向き矢印は表示されません。  
ラックマウント サーバに関する次の詳細を表示できます。

タブ	説明
説明	問題の原因の要約。
推奨事項	問題を解決する手順。

ステップ 4 [閉じる (Close)] をクリックします。

## ラック マウント サーバの電源オン/オフ

ラック マウント サーバの電源をオンまたはオフにする場合は、次の手順を実行します。

### 始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

### 手順

ステップ 1 [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

ステップ 2 [Rack Groups (ラック グループ)] を選択します。

(注) [Rack Groups] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、[Rack Servers] をクリックします。

(注) また、[Rack Groups] で、サブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 サーバのリストから、電源をオンまたはオフにするサーバを選択します。

(注) 複数のラック サーバを選択することもできます。

ステップ 5 [Power On (電源オン)] をクリックします。[More Actions (その他の操作)] ドロップダウン リストから [Power OFF (電源オフ)] を選択します。

(注) 右クリックしてオプションを選択することもできます。

ステップ 6 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。

- (注) サーバの電源がオンまたはオフになったことを示すメッセージが表示されます。また、このメッセージは、いずれかのサーバの電源オン/オフを実行できなかったかどうかを示します。少し時間が経過した後でテーブルを更新すると、現在の電源状態が反映されます。

## ラック マウント サーバのアセットのタグ付け

アセット タグは、サーバのユーザー定義タグです。[Asset Tag (アセット タグ)]オプションを使用し、Cisco IMC Supervisorで Cisco IMC サーバ プロパティを追加できます。

ラック サーバとシャーシの両方でアセットをタグ付けできます。シャーシのアセットにタグを付けるには、[Cisco UCS S3260 ラック サーバのアセットのタグ付け](#)を参照してください。アセットにタグを付けるには、次の手順を実行します。

### 始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

### 手順

**ステップ 1** [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

**ステップ 2** [Rack Groups (ラック グループ)] ページで [Rack Servers (ラック サーバ)] をクリックします。

- (注) また、[Inventory and Fault Status (インベントリと障害のステータス)] ペインの [Rack Groups (ラック グループ)] でサブ グループを選択することもできます。

**ステップ 3** タグを付けるサーバを選択します。

**ステップ 4** [More Actions (その他の操作)] ドロップダウン リストから [Asset Tag (アセット タグ)] を選択します。

- (注) 右クリックしてオプションを選択することもできます。

**ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックします。

- (注) [Asset Tag (アセット タグ)] オプションは、Cisco IMCリリース 3.0.(1c) 以降でのみ使用可能です。これよりも古いバージョンのプラットフォームでは、[Rack Groups (ラック グループ)] ページの [Asset Tag (アセット タグ)] カラムは空白になります。

## ラックマウント サーバのシャットダウン

ラックマウント サーバをシャットダウンする場合は、次の手順を実行します。



(注) 複数のラック サーバを選択することもできます。

### 始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

### 手順

**ステップ 1** [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

**ステップ 2** [Inventory and Fault Status (インベントリおよび障害ステータス)] ペインで、[Rack Groups (ラック グループ)] をせん。

(注) [Rack Groups] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

**ステップ 3** 選択したラック グループのページで、[Rack Servers] をクリックします。

(注) また、[Rack Groups] で、サブ グループを選択することもできます。

**ステップ 4** リストからサーバを選択します。

**ステップ 5** [More Actions (その他の操作)] ドロップダウン リストから、[Shut Down (シャットダウン)] を選択します。

(注) 右クリックしてオプションを選択することもできます。

**ステップ 6** [OK] をクリックします。

## ラックマウント サーバのハード リセットの実行

サーバをリセットするには、次の手順を実行します。



(注) 複数のラック サーバを選択することもできます。

### 始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

### 手順

---

**ステップ 1** [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

**ステップ 2** [Inventory and Fault Status (インベントリおよび障害ステータス)] ペインで、[Rack Groups (ラック グループ)] をせん。

(注) [Rack Groups] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

**ステップ 3** 選択したラック グループのページで、[Rack Servers] をクリックします。

(注) また、[Rack Groups] で、サブ グループを選択することもできます。

**ステップ 4** リストからサーバを選択します。

**ステップ 5** [More Actions (その他の操作)] ドロップダウン リストから、[Hard Reset (ハード リセット)] を選択します。

(注) 右クリックしてオプションを選択することもできます。

**ステップ 6** [OK] をクリックします。

---

## ラック マウント サーバの電源再投入の実行

ラック マウント サーバの電源を 1 サイクルでオンまたはオフにするには、次の手順を実行します。



(注) 複数のラック サーバを選択することもできます。

---

### 始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

### 手順

---

**ステップ 1** [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

**ステップ 2** [Inventory and Fault Status (インベントリおよび障害ステータス)] ペインで、[Rack Groups (ラック グループ)] をせん。

(注) [Rack Groups] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

**ステップ 3** 選択したラック グループのページで、[Rack Servers] をクリックします。

(注) また、[Rack Groups] で、サブ グループを選択することもできます。



ステップ4 リストからサーバを選択します。

ステップ5 **[More Actions (その他の操作)]** ドロップダウンリストから、**[Power Cycle (電源の再投入)]** を選択します。

(注) 右クリックしてオプションを選択することもできます。

ステップ6 **[OK]** をクリックします。

---

## ラックマウントサーバのKVMコンソールの起動

*kvm.jnlp* ファイルをダウンロードし、KVM コンソールを開くには、次の手順を実行します。



(注) 4.1(1c) 以降のファームウェアを実行している C シリーズ M4 または C シリーズ M5 サーバの KVM コンソールを起動するには、明示的な認証が必要です。

### 始める前に

- サーバがラック アカウントとしてラック グループに追加されていることを確認します。
- KVM 機能が機能するために必要な有効な Java Runtime Environment (JRE) がインストールされていることを確認します。

### 手順

ステップ1 **[Systems] > [Inventory and Fault Status]** を選択します。

ステップ2 **[Inventory and Fault Status (インベントリおよび障害ステータス)]** ペインで、**[Rack Groups (ラック グループ)]** をせん。

(注) **[Rack Groups]** を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

ステップ3 選択したラック グループのページで、**[Rack Servers]** をクリックします。

(注) また、**[Rack Groups]** で、サブ グループを選択することもできます。

ステップ4 リストからサーバを選択します。

ステップ5 **[More Actions (その他の操作)]** ドロップダウンリストから **[KVM Console (KVM コンソール)]** を選択します。

(注) 右クリックしてオプションを選択することもできます。

- KVM コンソールを起動するサーバは最大 5 台選択できます。

**ステップ 6** [Submit] をクリックします。

Cisco IMC Supervisor によって *kvm.jnlp* ファイルがダウンロードされます。

**ステップ 7** ダウンロードフォルダ内の *kvm.jnlp* ファイルをダブルクリックします。

[KVM Console] が別ウィンドウで開きます。

(注) 別のウィンドウで開く *launcher.jsp* ファイルに、選択したサーバのリストが表示されます。KVM コンソールが正常に起動しているか確認することもできます。

---

## ラックマウント サーバの GUI の起動

別のブラウザで Cisco IMC Supervisor GUI を起動するには、次の手順を実行します。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

---

**ステップ 1** [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

**ステップ 2** [Inventory and Fault Status (インベントリおよび障害ステータス)] ペインで、[Rack Groups (ラック グループ)] をせん。

(注) [Rack Groups] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

**ステップ 3** 選択したラック グループのページで、[Rack Servers] をクリックします。

(注) また、[Rack Groups] で、サブ グループを選択することもできます。

**ステップ 4** リストからサーバを選択します。

**ステップ 5** [More Actions (その他の操作)] ドロップダウン リストから [Launch GUI (GUI の起動)] を選択します。

(注) 右クリックしてオプションを選択することもできます。

**ステップ 6** [Submit (送信)] をクリックします。

サーバの GUI が別のブラウザで起動します。

---

## ラックマウント サーバのロケータ LED の設定

サーバロケータ LED を使用すると、データセンター内の多数のサーバ間で特定のサーバを識別できます。LED をオン/オフに設定するには、次の手順を実行します。



(注) 複数のラック サーバを選択することもできます。

### 始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

### 手順

**ステップ 1** [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

**ステップ 2** [Inventory and Fault Status (インベントリおよび障害ステータス)] ペインで、[Rack Groups (ラック グループ)] をせん。

(注) [Rack Groups] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

**ステップ 3** 選択したラック グループのページで、[Rack Servers] をクリックします。

(注) また、[Rack Groups] で、サブ グループを選択することもできます。

**ステップ 4** リストからサーバを選択します。

**ステップ 5** [More Actions (その他の操作)] ドロップダウン リストから、[Locator LED (ロケータ LED)] を選択します。

(注) 右クリックしてオプションを選択することもできます。

**ステップ 6** [Turn] ドロップダウン リストから、[ON] または [OFF] を選択します。

**ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックします。

## ラックマウント サーバのラベルの設定

サーバにラベル名を設定することで、サーバの分類に役立ちます。これによって、必要なサーバの検索、表示、比較がしやすくなります。ラックマウントサーバにラベルを設定するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

### 手順

---

**ステップ 1** [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

**ステップ 2** [Inventory and Fault Status (インベントリおよび障害ステータス)] ペインで、[Rack Groups (ラック グループ)] をせん。

(注) [Rack Groups] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

**ステップ 3** 選択したラック グループのページで、[Rack Servers] をクリックします。

(注) また、[Rack Groups] で、サブ グループを選択することもできます。

**ステップ 4** リストからサーバを選択します。

**ステップ 5** [More Actions (その他の操作)] ドロップダウンリストから [Set Label (ラベルの設定)] を選択します。

(注) 右クリックしてオプションを選択することもできます。

**ステップ 6** 新しいラベルを入力します。

**ステップ 7** [送信 (Submit)] をクリックします。

---

## ラックマウント サーバのタグの管理

タグgingは、リソース グループまたはラック サーバなどのオブジェクトにラベルを割り当てるために使用されます。タグは、ラックの位置、担当サポートグループ、目的、オペレーティングシステムなどの情報を提供するために使用できます。タグを追加または変更するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

### 手順

---

**ステップ 1** [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

**ステップ 2** [Inventory and Fault Status (インベントリと障害のステータス)] ペインで [Rack Groups (ラック グループ)] を展開し、サーバを含むラック グループを選択します。

**ステップ 3** [Rack Servers (ラック サーバ)] または [Chassis (シャーシ)] をクリックします。

(注) **[Rack Groups (ラック グループ)]** ではサブ グループを選択できます。

**ステップ 4** [その他のアクション (More Actions) ] ドロップダウンリストから [タグの管理 (Manage Tags) ] を選択します。

(注) 右クリックしてオプションを選択することもできます。

**ステップ 5** [+] をクリックして、[Manage Tags] テーブルにエントリを追加します。

**ステップ 6** **[Add Entry to Tag (タグへのエントリの追加)]** 画面で、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[Tag Name]	

フィールド	説明
	<p>ドロップダウンリストからタグ名を選択して [Submit] をクリックするか、新しいタグを作成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [+] アイコンをクリックします。</li> <li>2. [Create Tag] ウィンドウで、次の手順を実行します。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [Name] フィールドに、タグを記述する名前を入力します。</li> <li>2. [Description] フィールドに、タグの説明を入力します。</li> <li>3. [Type] フィールドで、ドロップダウンリストから文字列または整数を選択します。</li> <li>4. [Possible Tag Values] フィールドで、可能なタグ値を入力します。</li> <li>5. [Next] をクリックします。</li> <li>6. [+] アイコンをクリックして、新しいカテゴリを追加します。</li> </ol> </li> <li>3. [Add Entry to Entities] ウィンドウで、[Category] ドロップダウンリストからカテゴリを選択します。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [Physical_Compute] カテゴリの場合、ラックサーバのタグエンティティが作成されます。</li> <li>• [Administration] カテゴリの場合、ユーザ用のタグエンティティが作成されます。</li> </ul> <p>(注) シャーシのタグを追加することもできます。シャーシのタグの追加方法の詳細については、<a href="#">Cisco UCS S3260 ラックサーバのタグの追加</a>を参照してください。</p> </li> <li>4. [Rack Servers] または [Chassis] チェック</li> </ol>

フィールド	説明
	<p>ボックスをオンにします。</p> <p>5. [Submit] をクリックします。</p> <p>(注) タグは、セットになったタグ付け可能なエンティティに応じてそれぞれのカテゴリの下に表示されます。</p> <p>6. 確認ダイアログボックスで、[OK] をクリックします。</p>
タグ値	ドロップダウン リストからタグ値を選択します。

ステップ 7 [送信 (Submit) ] をクリックします。

ステップ 8 **[Manage Tags (タグの管理)]** 画面でタグを選択し、**[Edit (編集)]** をクリックしてタグを編集します。

ステップ 9 タグ名とタグ値を選択して、タグを変更します。

ステップ 10 [Submit] をクリックします。

## ラックマウント サーバのタグの追加

タグgingは、リソース グループまたはラック サーバなどのオブジェクトにラベルを割り当てるために使用されます。タグは、ラックの位置、担当サポートグループ、目的、オペレーティング システムなどの情報を提供するために使用できます。ラック マウント サーバにタグを追加するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。



(注) 複数のラック サーバを選択することもできます。

### 手順

ステップ 1 **[Systems] > [Inventory and Fault Status]** を選択します。

ステップ 2 **[Inventory and Fault Status (インベントリおよび障害ステータス)]** ペインで、**[Rack Groups (ラック グループ)]** をせん。



(注) [Rack Groups] を展開し、サーバを含むラックグループを選択することもできます。

**ステップ3** 選択したラックグループのページで、[Rack Servers] をクリックします。

(注) また、[Rack Groups] で、サブグループを選択することもできます。

**ステップ4** [その他のアクション (More Actions) ] ドロップダウンリストから [タグの追加 (Add Tags) ] を選択します。

(注) 右クリックしてオプションを選択することもできます。

**ステップ5** ドロップダウンリストから [Tag Name] を選択します。

**ステップ6** ドロップダウンリストから [Tag Value] を選択します。

**ステップ7** [+] アイコンをクリックして、新しいタグを作成します。タグの作成については、[ラックマウントサーバのタグの管理 \(12 ページ\)](#) を参照してください。

(注) また、タグの詳細を複製、編集、削除、表示することもできます。

---

## リモートサーバへのテクニカルサポートデータのエクスポート

指定したサーバにテクニカルサポートファイルをアップロードするには、次の手順を実行します。



(注) テクニカルサポートのエクスポートオプションでは、Cisco UCS S3260 高密度ストレージラックサーバはサポートされていません。

---

### 手順

**ステップ1** [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

**ステップ2** [Inventory and Fault Status (インベントリおよび障害ステータス)] ペインで、[Rack Groups (ラックグループ)] をせん。

(注) [Rack Groups] を展開し、サーバを含むラックグループを選択することもできます。

**ステップ3** 選択したラックグループのページで、[Rack Servers] をクリックします。

(注) また、[Rack Groups] で、サブグループを選択することもできます。

**ステップ4** リストでラックマウントサーバをダブルクリックしてその詳細を確認するか、リストでラックマウントサーバをクリックし、右端の下矢印をクリックして [詳細の表示 (View Details)] を選択します。

**ステップ5** [Tech Support (テクニカル サポート)] をクリックします。

**ステップ6** [Create Tech Support] をクリックします。

**ステップ7** [Create Tech Support (テクニカル サポートの作成)] 画面で、次のフィールドに入力します。

名前	説明
[Destination Type] ドロップダウンリスト	リモートサーバまたはローカルの Cisco IMC Supervisor アプリケーションにファイルをエクスポートできます。[REMOTE] または [LOCAL] を選択します。
[Network Type] ドロップダウンリスト	ネットワークタイプ。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• SCP</li> <li>• SFTP</li> <li>• FTP</li> <li>• TFTP</li> </ul>
[サーバIP/ホスト名 (Server IP/Hostname)] フィールド	サポートデータファイルを保存する必要があるサーバの IP アドレスまたはホスト名。[Network Type] ドロップダウンリストの設定によって、このフィールドの名前が異なります。
[Path and Filename] フィールド	ファイルをリモートサーバにエクスポートする際に必要なパスおよびファイル名。
<b>Username</b>	システムがリモートサーバへのログインに使用する必要があるユーザ名。ネットワークタイプが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。
<b>Password</b>	リモートサーバのユーザ名のパスワード。ネットワークタイプが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。

**ステップ8** [Submit] をクリックします。

- (注)
- 選択してダウンロードできるテクニカルサポートファイルは、[Destination Type] として [LOCAL] を選択して作成されたものだけです。
  - 既存のテクニカルサポートファイルを選択し、Cisco IMC Supervisor アプリケーション内に保存されているファイルのみをダウンロードできます。特定のファイルを選択し、[Download] をクリックします。<hostname>\_<timestamp>.tar.gz ファイルが作成されます。

## SELのクリア

システム イベント ログ (SEL) は、問題のトラブルシューティングに使用できるほとんどのサーバ関連イベントを記録します。SEL ログをクリアするには、次の手順を実行します。

### 手順

**ステップ 1** [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。

**ステップ 2** [Inventory and Fault Status (インベントリおよび障害ステータス)] ペインで、[Rack Groups (ラック グループ)] をせん。

(注) [Rack Groups] を展開し、サーバを含むラック グループを選択することもできます。

**ステップ 3** 選択したラック グループのページで、[Rack Servers] をクリックします。

(注) また、[Rack Groups] で、サブ グループを選択することもできます。

**ステップ 4** リストでラックマウントサーバをダブルクリックしてその詳細を確認するか、リストでラックマウントサーバをクリックし、右端の下矢印をクリックして [View Details (詳細の表示)] を選択します。

**ステップ 5** [System Event Log] をクリックします。

**ステップ 6** [Clear IMC SEL Log] をクリックします。

**ステップ 7** (任意) [Clear IMC SEL Logs (IMC SEL ログのクリア)] 画面で、[Delete historical logs from Cisco IMC Supervisor (Cisco IMC Supervisor から履歴ログを削除する)] チェックボックスをオンにします。

このオプションを選択すると、Cisco IMC Supervisor GUI からシステム イベント ログがクリアされます。

**ステップ 8** [送信 (Submit)] をクリックします。

## システム タスクの管理

[システムのタスク (System Tasks)] タブには、現在 Cisco IMC Supervisor で利用可能なすべてのシステム タスクが表示されます。ただし、このシステム タスクのリストは、Cisco IMC Supervisor で作成したアカウントのタイプにリンクされています。たとえば、初めてログインした場合は、一連の汎用システム関連のタスクだけがこのページに表示されます。ラックアカウントや Cisco IMC Supervisor アカウントなどのアカウントを追加した時点から、これらのアカウントに関連するシステムのタスクがこのページに読み込まれます。

左側のペインでタスクを展開し、消去、ラックサーバ、ユーザ、グループタスクなどの個々のタスクを選択して、それらを管理します。

アプライアンスで実行しているプロセスまたはタスクが複数ある状況において、システムタスクの無効化を選択することができます。無効にすると、手動で有効にするまで、システムタスクは実行されません。これは他のレポートに入力されるデータに影響します。たとえば、インベントリ収集のシステムタスクを無効にすると、このデータが必要なレポートに正確なデータが表示されない場合があります。この場合、インベントリ収集プロセスを手動で実行するか、またはシステムタスクを有効にする必要があります。



(注) システムタスクの編集は推奨されません。

### 手順

- ステップ 1** [Administration] > [System] を選択します。
- ステップ 2** [システムのタスク (System Tasks)] をクリックします。
- ステップ 3** リストからタスクを選択し、[Manage Task] をクリックします。
- ステップ 4** [Manage Task (タスクの管理)] 画面で、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[Task Execution] ドロップダウンリスト	(オプション) [Enable] または [Disable] を選択します。
[System Task Policy] ドロップダウンリスト	次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>default-system-task-policy</b></li> <li>• <b>local-run-policy</b></li> </ul>
[スケジュールタイプ] ドロップダウンリスト	システムタスクのスケジュールタイプを指定します。次のいずれかのオプションを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[遅延の固定]</b> : 1つのタスクの実行を完了し、次のタスクの実行の開始までの時間を意味します。</li> <li>• <b>[固定レート]</b> : 連続のタスクの実行時間を意味します。1つのタスクの実行に遅延が発生した場合、または1つのタスクを実行する時間がスケジュールされた時間より長くかかった場合、後続のタスクの実行が遅延します。この設定で設定されているシステムタスクは、同時に実行されません。これらのタスクは、同時に実行されません。</li> </ul>

フィールド	説明
[Hours] ドロップダウン リスト	<p>タスクを実行する間隔を時間単位で選択します。</p> <p><b>[遅延の固定]</b> をスケジュールタイプとして選択した場合、この数字は1つのタスクの実行を完了し、次のタスクの実行の開始する間の時間間隔を示します（時間）。</p> <p><b>[Fixed Rate (固定レート)]</b> を選択した場合、この数字は連続したタスクの実行の時間間隔を示します（時間）。</p>
[Minutes] ドロップダウン リスト	分単位のタスク実行頻度を選択します。
<b>[カスタム頻度の有効化]</b> チェックボックス	システム タスクのカスタム頻度を有効にするには、このチェック ボックスをオンにします。
<b>[繰り返しタイプ (Recurrence Type) ]</b> ドロップダウン リスト	<p>システム タスクの定期スケジュールを指定します。次のいずれかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 無期限</li> <li>• 1回のみ</li> </ul>
[Start Time] フィールド	定期スケジュールの日付と時刻を特定します。
<b>[頻度 (Frequency) ]</b> ドロップダウン リスト	<p>システム タスクの頻度を選択します。次のいずれかを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 毎時</li> <li>• <b>[毎日(Daily)]</b></li> <li>• <b>[毎週 (Weekly) ]</b></li> <li>• <b>[月 1 回(Monthly)]</b></li> </ul> <p>(注) このフィールドは、<b>[繰り返しタイプ]</b> ドロップダウンリストから<b>[無期限]</b>を選択した場合にのみ表示されます。</p>
<b>[頻度の間隔 (Frequency Interval) ]</b> ドロップダウン リスト	ドロップダウンリストから頻度間隔を選択します。このリスト内の値は、指定した頻度によって異なります。

**ステップ 5** [送信 (Submit) ] をクリックします。

## タスクの実行

各タスクは、ユーザが定義した間隔で実行するようにスケジュールされます。ただし、これを上書きして手動で実行することができます。手動で実行したタスクは、再度頻度カラムの定義

に従って実行するようにスケジュールされます。システムタスクを手動で実行する場合は、次の手順を実行します。

#### 手順

---

- ステップ1 **[Administration]** > **[System]** を選択します。
  - ステップ2 **[システムのタスク (System Tasks)]** をクリックします。
  - ステップ3 テーブルからシステム タスクを選択します。
  - ステップ4 **[Run Now (今すぐ実行)]** をクリックします。
  - ステップ5 **[送信 (Submit)]** をクリックします。
-